

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

[評価実施概要]

事業所番号	4072900352		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム まつぎきの宿		
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市松崎字福泉塚476-1 (電 話) 0942-73-5500		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年6月30日	評価確定日	平成21年8月6日

[情報提供票より] (平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 14 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 16.7	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	(光熱費) 9,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (6 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	協和病院・富安医院・ヨンタケ脳神経外科・二宮医院・立山歯科
---------	-------------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

古くからの街道が交差する、交通の要所の宿場町として賑わった場所に、歴史ある社会福祉法人を母体として、「まつぎきの宿」がある。自然に恵まれた中にあり、季節の変化を肌で感じながら、日常的に戸外に出掛けられる周辺環境を有している。入居者の人物像が見えてくるような、個別・具体的な介護計画が作成されており、入居者本位の支援を実践している事業所の姿勢を窺い知ることができる。入居者・家族・地域の高齢者の要望に、臨機応変に柔軟な対応がなされており、地域の中で支え、支えられる関係が入居者のその人らしい暮らしへの支援にも繋がっている。今後は更に多様な関係者との連携により、新たな展開が期待されるグループホームである。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の改善課題として、災害時に備えた非常食の準備の必要性について指摘があったが、改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成にあたっては職員間での話し合いが行われ、管理者によってまとめられている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、定期開催されている。参加者からの質問や意見、アドバイスを参考にしながら、サービスの質の向上に活かしている。災害時の地域への協力要請等も行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ご意見箱を設置し、苦情・相談窓口について玄関に案内を掲示している。家族会があり、また日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしており、意見や要望を言いやすい関係づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、地域行事(文化祭・放生会・盆踊り・初詣など)に参加している。地域住民が気軽に訪れ、野菜などを頂くことも多い。保育園・養護学校との交流により、行事への参加や定期的な訪問が行われている。運営者の地元でもあり、

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	地域密着型としての意義を踏まえた、事業所独自の理念が創られており、玄関ホールには入居者により毛筆で書かれた理念が掲示されている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	日々の申し送りやミーティングにおいて、理念に触れ確認と共有が図られている。問題が生じた場合には、常に理念に基づいた対応となるように努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい	自治会に加入しており、地域行事(文化祭・放生会・盆踊り・初詣など)に参加している。地域住民が気軽に訪れ、野菜などを頂くことも多い。保育園・養護学校との交流により、行事への参加や定期的な訪問が行われている。運営者の地元でもあり、地域との日常的な関わりも深く、協力関係が構築されている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては職員間での話し合いが行われ、管理者によってまとめられている。昨年の改善課題として、災害時に備えた非常食の準備の必要性について指摘があったが、改善されている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期開催されている。参加者からの質問や意見、アドバイスを参考にしながら、サービスの質の向上に活かしている。災害時の地域への協力要請等も行われている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム まつざきの宿

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	市町村担当者への定期的な状況報告が行なわれている。ホームでの祭りの際には応援にきてもらう等、連携体制が構築されている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している入居者があり、毎月司法書士が面会する際には、情報を共有し知識を深めている。また地域包括支援センターとの連携もあり、必要な場合には活用できるように支援している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告	毎月、行事予定や行事風景を写真とともに掲載した「宿便り」を発行し、会計報告とともに送付している。家族の来訪時には日々の暮らし振りや健康状態を報告することに努め、状況の変化があった場合には、速やかな連絡に努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	○運営に関する家族等意見の反映	ご意見箱を設置し、苦情・相談窓口について玄関に案内を掲示している。家族会があり、また日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしており、意見や要望を言いやすい関係づくりに努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	○職員の異動等による影響への配慮	入居者・家族と職員の馴染みの関係を重視しており、やむを得ず移動や離職が発生した場合にも、引き継ぎを十分に行う等の配慮に努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別を理由として排除することはない。また働きやすい環境づくりに配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム まつざきの宿

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	法人全体での研修が行われており、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。また小郡市の虐待防止研究会に所属している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	法人全体の研修や、法人内の他事業所との交換研修等が行われている。内外の研修に順番で参加し、研修報告書により職員間で内容を共有している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	他法人のグループホームとの交流により、車椅子ダンスを習得する等の取り組みがある。法人内の他事業所との行事交流や連携により、サービスの向上に活かしている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用	本人・家族の希望により、ホームの見学や体験入居を行い、少しずつ馴染みながら、安心してサービスが利用できるように柔軟に支援している。居室はゆとりある広さがあり、入居開始時には宿泊する家族も多い。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、同じ時間を共に過ごし、入居者から歴史や方言、ことわざを学び、また調理の味付けや裁縫を教えてもらうことも多い。職員とアリングからも、入居者への思いが十分に伝わってきた。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム まつざきの宿

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	入居者の言葉や表情から真意を汲み取るように努め、またプライバシーに配慮しながら生活歴等のアセスメントを行い、本人の全体像の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切に、関係者の意見を参考にしながら、一人ひとりの心身の状態に即した、本人本位の個別・具体的な介護計画が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	通常は3ヶ月毎に見直しを行なっている。本人・家族の状況や希望に変化が生じた場合には、関係者と話し合いを行い、随時見直しをおこなっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	入居者の家族や友人の、宿泊や食事にも柔軟に対応している。入居者・家族・地域高齢者の状況や要望に応じて、臨機応変な対応や配慮が行なわれている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向による、かかりつけ医との関係を大切にしている。協力医療機関との24時間連絡体制があり、また看護職員の日々の健康管理により、入居者・家族の安心となるよう努めている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム まつざきの宿

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方について、本人にとって最善の支援方法となるよう家族等との話し合いを重ね、関係者で共有している。これまでの看取りの経験が職員の糧となり、日々のケアに繋がっている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底	日々の支援の場面において、入居者の人格や尊厳を傷つけない介護を心がけている。居室内にトイレが設けられており、プライバシーにも配慮された設計となっている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	○日々のその人らしい暮らし	基本的な一日のスケジュールはあるが、入居者のペースに合わせて柔軟に対応している。自己決定を尊重した支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援	敷地内にある広い畑で収穫された野菜が食卓を飾ることもあり、職員も同じテーブルを囲みながら同じメニューにて食事をしている。調理の下ごしらえ等に個々の能力を活かした参加がある。時にはホーム庭での昼食会や外食も行なわれ、食を楽しむ取り組みが行なわれている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	○入浴を楽しむことができる支援	本人の希望や状況に合わせて、毎日の入浴を支援している。季節に合わせた(しょうぶ湯など)入浴を楽しむ工夫も行なわれている。拒否する方には無理強いせず、一人ひとりに合わせた声かけを時間をかけて行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム まつざきの宿

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	個々の得意分野や能力を把握し、希望や習慣を踏まえて、力が発揮できる場面づくりに努めている。調理の下ごしらえや後片付け、野菜作りや花を活けるなど、一人ひとりに合った支援が行われている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	○日常的な外出支援	入居者の希望や状況に応じて、散歩や買い物等に日常的に出掛けている。近隣地域から入居している方も多く、自宅への散歩等も行われている。広い敷地内にある庭や畑など、戸外に出やすい環境を有している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践	日中、鍵をかけないケアを実践している。見守りの徹底、入居者の動向の把握により、安全面に十分に配慮しながら自由な暮らしを支えている。近隣住民の協力もあり、声かけや連絡をしてもらえる関係がある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	○災害対策	災害時のマニュアルを整備し、年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議等にて、地域への災害時の協力を呼びかけている。今年度はスプリンクラーを設置する予定となっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援	個別のチェック表に食事や水分摂取量を記録し、健康管理に活かすとともに、職員間で共有している。法人本部の栄養士による、栄養バランスに配慮された献立が作成されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム まつざきの宿

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	共用空間には、季節の花や飾りにより、季節感を採り入れている。居室入口には、昔の宿屋をイメージした軒が出ており、宿場町として賑わっていた時代を連想することができる。各居室前にはポストが設置してあり、毎月23日には「ふみの日」と題して職員から手紙が届けられている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	ゆとりある広さを持つ各居室には、トイレや収納が設置されている。冷蔵庫や炬燵、仏壇等の馴染みの品が持ち込まれており、個人的に電話を設置されている部屋もあり、居心地よく安心して過ごせるよう配慮がなされている。各居室には、昔馴染みの宿屋の名前が付けられている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			